

日本・アジアのキリスト教—賀川豊彦(2)

芦名定道

日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。この演習では、年度や学期を超えて、明治期以降の重要なキリスト教の思想家たちを順次検討してゆくことによって、近代キリスト教思想の重要な局面の解明がめざされている。今年度前期は、昨年後期に引き続き、近代日本を代表するキリスト教思想家・実践家である賀川豊彦のテキストを読み進めてみたい。合わせて、賀川研究に関連した研究文献を講読する。

<演習のスケジュールと場所>

演習日（前期・金2）：4/12, 19, 26, 5/10, 17, 24, 31, 6/7, 14, 21, 28, 7/5, 12, 19

場所：キリスト教学研究室

- ・初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。3回目以降は、賀川豊彦「社会革命と精神革命」（全集4、キリスト新聞社）を、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。
- ・4/10：オリエンテーション＋導入（本日）
- ・4/19：昨年度後期のまとめ＋担当者確定（テキストの配布）
- ・4/26, 5/10, 17, 24, 31, 6/7, 14, 21, 28, 7/5, 12, 19：演習
- ・毎回担当者が、テキストの内容を説明し、問題提起し（テキスト外の資料などを合わせて用いる）、議論を行う。担当者はレジメを用意する。残った問題は宿題とする（次回の冒頭で報告する）。
- ・必要な解説を行う（芦名）。
- ・成績はゼミでの発表（少なくとも一回）によって評価する。

<テキスト>

- ・賀川豊彦『賀川豊彦全集4』（キリスト新聞社）

<賀川豊彦の略歴的説明>（『岩波キリスト教辞典』の項目・金子啓一）

- ・1888-1960。神戸で生まれ、父母の病死で徳島で育つ。
- ・キリスト教社会運動家、伝道者。
- ・宣教師マイヤース（南長老ミッション）に出会い受洗、明治学院、神戸神学校で学ぶ。
- ・肺結核で死の宣告を受ける。
- ・1909年、貧民伝道・奉仕のため、神戸新川スラムに転居。女工のハルと結婚。
- ・関西労働同盟会結成、神戸川崎造船大労働争議の指導。
- ・日本農民組合、消費組合（神戸購買組合→コープこうべ）の設立。
- ・1914-17：渡米、プリンストン大学、プリンストン神学校。
- ・1919年、日本基督教会の牧師資格（麹町教会）
- ・神の国運動（1929-1932、33-34）の全国展開。
- ・第二次世界大戦後、日本社会党結成に協力、イエスの友会、キリスト新聞社を興す。
- ・『死線を越えて』（1920）
- ・没後、『貧民心理の研究』（1915）の差別記述、戦時中の軍部への協力が問題となる。

<演習の背景・経緯>

- ・日本・アジアのキリスト教研究に向けて

- ①東北アジア（朝鮮半島・日本・中国・台湾）のキリスト教
- ②宣教師サイドからの視点との統合
- ③アジアにおける新しいキリスト教形成の可能性
- ④アジアの固有の課題とキリスト教（アジアの近代史のコンテクストにおいて）
- ⑤フィールド・ワークにおける研究方法の確立
- ⑥共同研究の実施

- ・日本キリスト教思想研究：近代日本とキリスト教思想との相互連関を中心に
 1. 2001 年度の矢内原忠雄、2002 年度の内村鑑三に続いて
 2. 近代日本（天皇制・民族主義）とキリスト教
 3. 明治期の日本キリスト教における神学の受容と形成
新神学論争、植村・海老名論争
 4. 2005 年度から、植村正久と日本のキリスト教的宗教哲学（学問的キリスト教思想）の系譜
とくに、2006, 2007 年度は、植村正久とその思想的展開（高倉徳太郎）
 5. 2008 年度から 2012 年度まで、波多野精一。
 6. 2013 年度から、無教会キリスト教。矢内原忠雄、南原繁、内村鑑三。

- ・研究会との相互関係：研究拠点の形成に向けて
「アジア・キリスト教・多元性」研究会
<https://sites.google.com/site/asiachristianity/>
『アジア・キリスト教・多元性』創刊号～第 17 号。
『比較宗教学への招待－東アジアの視点から－』晃洋書房 2006 年

<日本キリスト教史の現状>

- ①通史の試み
- ②個別教派・教団・教会の歴史編纂
- ③宣教師の伝記・書簡・公式の報告書
- ④人物研究（内村、新島、海老名、新渡戸、植村など）
- ⑤新聞・機関誌などの基礎資料の整備
全体的に、日本キリスト教思想研究が、各地の研究グループレベルの議論を超えた、キリスト教研究としてまだ確立していない。
土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史論』（教文館）

<文献>

- より包括的な文献表としては、<http://tillich.web.fc2.com/sub9.htm>、
<http://tillich.web.fc2.com/sub9a1.htm> を参照。
Barrett, Kurian, Johnson (eds.), *World Christian Encyclopedia*. vol.1-2, second edition
Oxford University Press 2001
Scott W.Sunquist (ed.), *A Dictionary of Asian Christianity*, Eerdmans Publishing 2001

- 国際基督教大学・アジア文化研究所編 『アジアにおけるキリスト教比較表』（創文社）
日本基督教団出版局編 『アジア・キリスト教の歴史』（日本基督教団出版局）
富坂キリスト教センター 『鼓動する東アジアのキリスト教』（新教出版社）
鶴沼裕子 『史料による日本キリスト教史』（聖学院大学出版会）
隅谷三喜男 『日本プロテスタント史論』（新教出版社）
『近代日本の形成とキリスト教』（新教出版社）

出口光朔 『近代日本キリスト教の光と影』(教文館)
土肥昭夫 『日本プロテスタント・キリスト教史』(新教出版社)
『歴史の証言 日本プロテスタント・キリスト教史より』(教文館)
海老沢有道・大内三郎 『日本キリスト教史』(日本基督教団出版局)
中央大学人文科学研究所 『近代日本の形成と宗教問題』(中央大学出版部)
高橋昌郎 『明治のキリスト教』(吉川弘文館)
古屋安雄・大木英夫 『日本の神学』(ヨルダン社)
武田清子 『土着と背教——伝統的エトスとプロテスタント』(新教出版社)
古屋安雄他 『日本神学史』(ヨルダン社)
石田慶和 『日本の宗教哲学』(創文社)
マーク・R・マリNZ 『メイド・イン・ジャパンのキリスト教』(トランスビュー)

1. 雨宮栄一 『青春の賀川豊彦』(2003)、『貧しい人々と賀川豊彦』(2005)、『暗い谷間の賀川豊彦』(2006年)新教出版社。
2. ロバート・シルジェン 『賀川豊彦——愛と社会正義を追い求めた生涯』新教出版社、2007年。
3. 阿部志郎・雨宮栄一・武田清子・森田進・古屋安雄・加山久夫 『賀川豊彦を知っていますか』教文館、2009年。
4. 賀川豊彦記念松沢資料館編 『日本キリスト教史における賀川豊彦』新教出版社、2011年。
5. C・H・ジャーマニー 『近代日本のプロテスタント神学』日本基督教団出版局、1982年(原著・1965年)
第二章「近代における日本自由主義神学とその社会に対する関心」
海老名弾正(一八五六—一九三七年)
大塚節治(一八八七年生まれ)
賀川豊彦(一八八八—一九六〇年)
6. Thomas John Hastings, *Seeing All Things Whole. The Scientific Mysticism and Art of Kagawa Toyohiko (1888-1960)*, PICKWICK Publications, 2015.
7. Kagawa Toyohiko (Edited with an Introduction by Thomas John Hastings), *Cosmic Purpose*, CASCADE Books, 2014.

<賀川豊彦の科学論>

(2018年度キリスト教学専修・MNの卒論より引用)

1. 論文「武装せる蟹」
- 2.
3. 「貧民心理の研究」(1915年)
4. プリンストン神学校、同大学へと留学している(1914~1917)。
5. 「精神運動と社会運動」(1919年)
6. 「愛の科学」(1924年)
7. 「宇宙創造と人生再創造」(1947年)
8. 「社会革命と精神革命」(1948年)
9. 「宇宙の目的」